

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の人間性を尊重し、生活の助長、心身機能の維持向上をはかり、当法人の施設、病院、近隣の施設等と連携をはかりながら安心して生活できる施設にすること」という独自の理念をつくっている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに理念を明示し、名札の裏にも理念をプリントしたものを入れ、常日頃から理念を意識して、介護にあたるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念をホームの見やすいところに表示して、日常的に生かせるようにし、家族や地域の人にもわかりやすいように浸透を図っている。		陶芸展示会で、グループホーム弘医荘のパンフレットを準備して、理念等も説明した。
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの立地条件からも、隣近所とのつきあいはむずかしいが、交流の機会があれば、積極的な声をかけるよう心がけている。隣接する託児所の子供との交流はできている。		・託児所・芋ほり、運動会、散歩など行事に参加。 ・実習生の受け入れを行った。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会には加入していない。当法人施設との合同行事に参加。地域の介護フェスタ、入居者数名参加。近隣の施設の文化祭、全員参加した。陶芸展示会で、入居者挨拶、説明をされていた。	○	町の行事、文化祭、祭事などの情報収集して、参加できるようにしたい。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・当法人のディサービスとの交流、合同での行事等の協力的な関係が出来ている。 ・管理者、町のボランティアに加入、行事のボランティア活動、高齢者の一人暮らしの方の定期的訪問している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を理解するためにも、スタッフ一人ひとりに自己評価を記述してもらいそれを皆で確認しあっている。結果については、評価を受けとめ改善に向け話し合い、意識を持って取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、入居者、家族、町担当職員、地区の区長、民生委員、老人クラブ代表、当法人の看護部長、職員等で会議を行っている。年間計画を立て、職員が交代で司会、進行を行っている。		入居者やホームの状況報告の他にテーマを決め、参加者からの意見や質疑応答、要望等、サービスの質の向上に努めている。運営推進会議の中で、消防署立会いのもとで、夜間設定の避難訓練を行った。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町のボランティア活動に参加し、担当職員と交流を図っている。ホームの相談や情報交換も気軽にいき、連携がとれている。(社協、健康福祉課、包括支援センター)		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族や地域の方々へ情報提供できるように、窓口にパンフレットを準備、又、見やすい所に表示している。町や福祉から発行されているパンフレットを準備、外部への研修会に参加、制度への理解を深めている。		地域での介護フェスタ「任意後見制度」に職員、入居者参加、家族へも呼びかけた。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会、資料で理解を深めるようにしている。抑制にあたる施設も夜間以外は行っていない。やむをえず、玄関に施設する場合、記録に残して、又、運営推進会議の中でも報告している。契約時にも、説明している。		言葉での暴言、入居者、スタッフ間とみのがされることがない様、又、あればミーティングをするようにしている。
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談や見学を重ねていただき、家族、本人の意向をしっかりと聞き、十分な説明を行っている。解約時にも、説明している。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の声を大切にし、不満、苦情を訴えられる雰囲気をつくり、ゆっくりと話しを傾聴する時間が持てる様、努力している。		そばに寄り添って、ゆっくりと話しを傾聴できる時間、心に寄り添う時間、場面、場面で努力しているが、ほとんど夜間帯が多い。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月に1回、ホームだよりを出し、状況報告をしている。心身状況の変化、受診結果報告している。家族来荘時、出納帳で金銭管理を行い、報告している。職員異動、紹介も行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の苦情、相談窓口、管理者であり、苦情、相談あれば看護部長に相談、家族、看護部長、場合によっては主治医も含めて、話し合いの場を持っている。		苦情内容を職員間に伝え、ファイルにしている。玄関に意見箱を設置している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居者の毎日の情報を聞きながら、コスト維持できるように、ソフト面、ハード面に点検している。		職員一人一人の知識向上がよりよい運営に継がる事を学習させたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	時にチャンスがあるので、早出勤、日祭出勤をして、業務改善提案をしている。		受け入れてもらえる様、試験期間を十分に持ちたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	十分なオリエンテーションを行い、混乱を招かない様、ダブル勤務をしている。		未経験者でも理解しやすいタイムマニュアルが必要と思う。男性にも理解しやすい物、(洗剤使用法・洗濯・利用者情報)
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男性未経験者、年齢等問わず、応募された方は全ての方に面接している。		目標設定時、自己実現項目を加えたい。向上心を持たせ、免許、認定を取得させたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	カンファレンスにて情報確認。		起きた事実を隠さず、運営推進会議で公表している。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成計画はしていない。		研修内容を紹介しているが、全てを職員に流してはいない。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域グループホーム会議で、輪番制なので、見学をさせている。		継続実行して行く。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	対話、会議を意識的に行き、笑いの場が出来る様努力している。		近寄らない職員(相談できない)も居るので、不平等にならないよう心がけている。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	1対1になる機会を持てる時、認める発言をしている。		年間目標の中で、細かく記録、記録させたい。(年間購読数等)
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの相談、受付から利用に至ることが多いので、なるべく一緒に見学に来て頂き、話を聴くようにしている。又、他のサービスを利用されている場合、面会の場を設けている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームの理念、現状などを説明、困ってあること、家族の思い、希望を受け止める努力をしている。本人が納得された上で、利用される事が一番である。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	当法人の居宅支援事業所等があり、担当者の 話し合い相談を行い、最良の方向性を検討して いる。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	体験入所は行っていないが、お茶や行事に誘っ たり、管理者、職員が面会、訪問するなど、柔軟 な対応をとり、サービス利用を開始している。		入居前に、バスハイクに家族の方と参加してい ただいた。
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあ う関係を築いている	利用者の得意とされているところ、趣味を生か した分野で、能力を発揮していただくようにしてい る。介護する、介護されるのではなく、入居者か ら学ばせていただいているという姿勢をとってい る。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力と理解がなければ、入居者を支え合 うことは出来ない。ホーム内の行事等に参加、 呼びかけ、共に支えていく関係を築く、努力して いる。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	家族との時間を大切にいただき、外出、外 泊などを支援している。本人の家族に対する思 いなど、機会あるごとに相談している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	友人の訪問など快くうけている。家族、知人、思 い出の場所(実家)などの話をされる時はゆっ くり話を傾聴し、家族の方と共に相談しながら面 会、外出の支援をしている。		図書館を利用したい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	少人数などで、人間関係が密接になり、性格、 相性等の問題など発生しているが、それぞれ把 握し孤立する事がない様心がけている。やさ しい声かけ、いたわり、ささえあっている関係も多く 見られ、その関係を支援している。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	入院による退居がほとんどである。本人の面会 に行ったり、家族の相談も、受入れを大切にしてい る。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が可能な方は、話を傾聴する事で、その人の思いに共感するよう努めている。困難な方については、日々の行動や表情から希望、意向を把握するように努めている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に個人情報を作成しているが、センター方式を開いて、職員全員がその人らしさを大切に支援している。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の介護記録を通じて日常生活、心身状態を把握、職員間で情報交換、共有化することによって、把握するよう努めている。		日勤のリーダーが情報伝達、問題生じれば話し合いの場を設ける努力をしている。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	認知症独自のアセスメント(センター方式)を使用し、利用者の思いや意見を聞き、状態の把握に努め、職員間で情報を共有化、各々の状態や希望を反映し具体的に介護計画を作成している。	○	介護計画、作成、見直しをしていく中で、家族の意向、課題、ケアのあり方について意見を最取り入れていきたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々、心身の状況変化が生じる方もおられるので、その都度、見直し、主治医、家族等にも相談説明、現状にあった介護計画、作成に努力している。	○	目標達成状況を評価し、確認しながら新たな介護計画、作成に努力している。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別記録に気づき、対応方法を記入、受診結果、問題行動など経過をくわしく記入、情報共有、介護計画、見直しに努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当法人の病院が隣接しているので、医療連携体制が確立している。デイサービス、託児所との関わり、ヘルパーステーションとの応援体制ができている。		日祭日、夜間帯でも状態に応じて病棟へ連絡、指示を受け、医師の受診もできる。
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議に民生委員が参加されている。ボランティア活動に参加し、情報交換などを行い、協力を呼びかけている。		デイサービスとの交流のひとつとして、ボランティアによる歌、踊り、手品など、又、消防署には避難訓練、警察署に入居者と共に挨拶、地域の人々に積極的に挨拶支援を促している。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	不都合、問題点など検討すべき事があれば、近隣施設やサービス事業者、ケアマネージャなどと連絡をとり、情報交換をしている。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	健康福祉課、地域包括支援センターには、運営推進会議に毎回出席していただいている。事業所だけでは解決困難なことに、相談解決を図っている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当法人の病院に2週間に1回、定期受診をしている。異常時にはその都度受診、24時間体制である。必要に応じて、家族の了解を得て、歯科受診を受けている。		定期的な健康診断を行い、場合によっては主治医、家族、看護部長とムンテラを行っている。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	相談、受診できる医療機関がある。受診時、職員が同行したり、情報提供し、指示や助言がもらえる。時間帯の配慮もできる。	○	往診を受けている利用者で、家族との話し合いの場は設けているが、医師との連携が取れない。家族と専門受診の検討を進めている。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当法人、医療機関の看護部長が毎日ホームに来られ、日常の健康管理等、相談、医療活用の支援を受けている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時、病棟との情報交換で状態把握つとめ、家族との連携をとりあって、早期退院が出来る様、支援している。		他の医療機関へ入院されていても、お見舞いに出かけたり、情報交換、状態把握にソーシャルワーカーと共に、支援をしている。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りは行っていないが、契約時に書面して説明、同意書をいただいている。重度化が進み、医療的なケアの必要が著しくなった場合、家族、主治医と相談、全員で方針を共有している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化や終末期の利用者がよりよい日々を送っていただく為に、主治医と共に家族と今後の変化に備えて話し合い、連絡をとっている。		入院され、家族と共に看取り、一夜を家族と共に過ごし、相談を受け、思い出話しをして、見送りもした。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ほとんどが当法人の医療機関への入院であるが、情報交換を行い、相談しながらダメージが最小限になるよう、努力している。		
	Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	各々の人格を尊重し、平等に、本人に傷つけない声かけを努力している。	○	入居者に対して、言うてはいけない言葉がかけられることがある。一人一人の自尊心を傷つけない配慮が必要である。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	思いや希望を表せるよう、話を聴いたり、声かけの努力をしている。	○	職員「待つ介護」を心がけて行きたい。
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務優先になっていることもたまに見受けられるが、自由に自分のペースで生活出来る様、日々、そのひとらしさが出せる様、努めている。	○	ケアに手がいる入居者があり、他の入居者の希望や思いが後回しになりがちなので、一人一人の希望にそった支援をしていきたい。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月2回の移動の美容車を利用したり、行きつけの美容室を利用されている方もある。外出やバスハイク時には、皆さん化粧をされ、顔そり等、楽しみにされている。		ボランティアによる、マッサージ、顔そり、化粧を行った。(入居者の家族)
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当法人内の栄養科に、入居者と取りに行ったり、配膳食事後片づけも、一緒に行っている。週に1度「調理の日」を決め、好みを献立に取り入れている。		好き嫌いの多い入居者には、栄養のバランス等、声かけしながら支援している。義歯使用の方に対しては、大きさ、固さなど気をつけ、糖尿病の方には、食事の量、糖分等、気をつけている。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコ、提供していない。梅サワードリンク等作って、希望者には飲んでいただいている。おやつも手作りのおやつ。飲み物にも変化を持たせ、心がけている。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用しながら、排泄パターンを把握、さりげない声かけ介助している。失敗があっても、自尊心を傷つけない様、支援、工夫をしている。その人にあったオムツを使用している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の入浴いになっている。無理意地をしないで、その方のパターンに合ったタイミングで声かけをしている。一緒に入浴の準備を行い、スムーズに入浴が行えるよう、努めている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動時間を作り、昼、夜のリズムが安定するように心がけている。安眠できる様、居室、環境作りに努めている。夜間の水分補給も手軽にできる様、お茶を準備している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意とされるところ、好きな事などを把握して、調理の下ごしらえ、洗濯物のたたみ、掃除、花植え、野菜植えなど、必要とされる事を感じて、張り合いが持てる支援を行っている。		

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理をされている方はいない。本人、家族の意向を取り入れながら、買物時、その人に応じた支払いを行っている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣の散歩、行事への参加、ドライブ、買物などと支援している。		喫茶店に出かけ、コーヒーを飲まれる。(家族との思い出の場所)
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族との食事、祝事、墓参り、買物と、外出の機会が多くみられる。月1回のバスハイクも出来るだけ、入居者の希望を取り入れている。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、気兼ねなく利用出来る様になっている。携帯電話をもってある入居者もおられ、自由に掛けてある。書中見舞い、年賀状、全員、家族に手書きポスト投函。家族もよろこばれた。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただける様にしている。談話室や、居室で気軽に過ごしていただける様と配慮している。入居者の方が、接待されたり、他の入居者や職員とも話し合えるような、雰囲気作りをしている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は全くやってなく、又理解している。言葉による拘束にも気をつけている。	○	向精神等は、主治医と相談して処方してもらっている。言葉による拘束が時として、無意識のうちに聞かれる事もあり、気をつけて行きたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行わず、夜間のみ施錠している。一緒に散歩したり、気分転換を図りながら見守りをしている。一人一人、日々状態をしっかり把握して自由な暮らしを支援している。		玄関が語らいの場であるが、申し送り等を行い、事故防止に配慮している。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	声かけ、見守りにて状態把握し、いつもスタッフの視界に入れ、配慮している。昼間、敷地内スタッフより連絡があり、応援体制をとっている。		携帯電話で情報を共有し、居場所確認をしている。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	見えない工夫を行い、危険防止に努めている。 注意の必要な物品(薬、洗剤、刃物)はスタッフルーム内の目の届かない場所へ保管している。 調理やその他で刃物、ハサミ等を使用する際は、スタッフが必ず見守り、安全確認を行っている		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な防災訓練を行っている。転倒等に対して、リハビリより指導してもらう事もある。		ヒヤリハット、緊急時連絡網を作成、活用できるようにしている。行方不明時にそなえて、(緊急発生時、入居者特長一覧表)を作成している。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期段階において、主治医に報告、指示を受けている。マニュアルを作成、内容を理解、研修会にも参加している。		公的機関で実施されている救急処置など、年1回、定期的に参加、計画している。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	付帯事業所と合同訓練参加。ホーム内の独自の避難訓練と、消防署立会いのもとで定期的に行っている。		運営推進会議等で、家族、区長、民生委員、老人クラブ、行政の方を交えて、夜間設定で避難訓練を行った。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	月1回のミーティング、毎日の申し送りで予測できるリスクは、細かく報告している。日々の暮らしぶりを伝え、意見や相談を受けている。		ホーム内で起きた事実を開示している。
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック、状態観察、早期発見に努め、看護部長が毎日観察。主治医、家族に報告。早めに対応している。		外部主治医とのコミュニケーションに計画性が必要と感じる。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時、医師の指示を受け、薬、説明書をシートにして確認作業をしている。受診記録ノートや体温表に受診内容、内服を記入、服薬シートを利用し、ひと目でわかる様、整理している。		変更時など、早急に情報伝達ノートを利用している。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	体温表を活用し、排便コントロールに努めている。腹部マッサージ、水分補給、随時声かけしている。離床、運動に心がけている。		便、排泄チェック、困難者もおられるので、行動を確認し、臭気等で確認することもある。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの援助促し、見守り声かけを行い、義歯の方は毎晩ケースに保管。週1回はポリデント洗浄。一人一人口腔状態に応じて支援している。		アルツハイマー病の方で、常に口腔内を触れられるので、他覚観察で、歯科往診をする。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医、管理栄養士との情報交換ができ、併設病院の栄養士が栄養摂取量総量計算。利用者の一日食事摂取量記載。水分摂取量、スタッフ全員把握、確認できるようにしている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルを作成し、研修会にも積極的に参加している。外出後の手洗い、うがい等、徹底的に実行している。		インフルエンザ予防接種、入居者、職員全員接種している。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、水回りの片付け、食器や調理器具など常に清潔に心がけ、乾燥機にかけたり、日光消毒も行っている。週1度の調理、おやつ作りと、新鮮で安全な食材を使用している。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	奥まった場所にある為、看板等でわかりやすいように工夫している。玄関回りに花を植えたり、季節感を出してあたたかな雰囲気をつくり出している。玄関には花を飾り、椅子を設置している。		模様替えを季節に合わせて、色彩を利用者の好む色にしたい。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には利用者手作り作品を置いている。気軽に入れる雰囲気、家庭的な暖かさを心がけている。	○	テレビが、一日つけっぱなしがあるので、入居者同士の会話を大切にしたい。テレビの音量、職員間の声の大きさなど、気をつけたい。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはソファを置き、自由に過ごせる場所としている。中庭も自由に散歩できるように、ベンチを置いたり玄関にも椅子を置き、一人の時間を持てるよう工夫している。	○	区隔が必要、目を合わせない空間が必要と思う。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使用されていた家具、生活用品の持ち込みが全体的に少ない。自作の陶芸作品、写真、季節の花などで暖かみを出す工夫をしている。		家族の写真など飾っていたが、残っている記憶から混乱を招かれる入居者がおられるので、安心して過ごしていただけるよう工夫している。

番号	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温 度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている	体温の変化により、訴えがあるので、着衣の重 ね着を行い、換気に努めている。		廊下に時々、排泄物臭、調理臭が残っているの で、敏感に一人一人が気づき、換気に心がけ る。
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつで きるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きに応じた生活必要品は情報に合わせ、変更 している。		混乱時の情報をキャッチし、ハード面かソフト面 か検討し、内容充実も図りたい。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立 して暮らせるように工夫している	食事の準備、洗濯物干し、読書等、一人一人の 行動に合わせている。	○	職員レベルの判断ではなく、させてみて繰り返 し、反復して自信をつけさせたい。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	花畑、野菜畑があるので、ベランダから眺め、も ぎってきて調理している。	○	花畑の花を毎日、一輪挿しにして、自室に飾っ たり、自由に押花、ドライフラワー等に全員が取 り組んでいける様、計画したい。

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2／3くらいの 《 》③利用者の1／3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 ○ 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 ○ 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 ○ 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2／3くらいが 《 》③利用者の1／3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 ○ 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働けている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 ○ 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 ○ 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない